

指導資料

社会 第136号

鹿児島県総合教育センター
令和3年4月発行

対象 小学校 中学校
校種 義務教育学校 特別支援学校



知識の理解の質を高める社会科の授業 — 知識を概念的に理解する手立て —

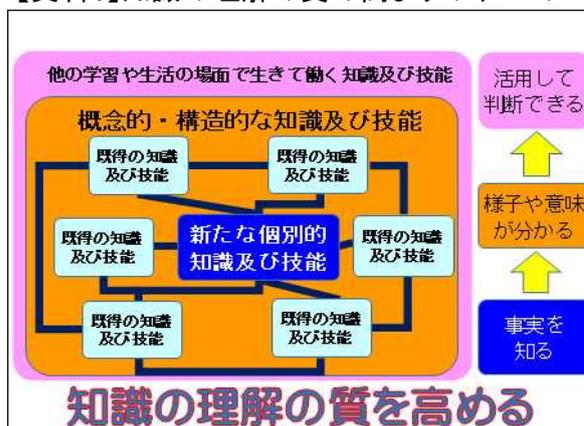
児童生徒が主体的に社会科学習に取り組むためには、知識の理解の質を高める学習活動を展開する必要がある。そのためには、授業において習得した断片的知識を、「知識の概念的な理解」を通して、概念的知識まで高めることが大切である。そこで、そのような児童生徒の学びを目指した授業づくりのポイントや実践例を具体的に示して紹介する。

1 知識の理解の質を高める社会科授業

社会科授業において知識の理解の質を高めるとは、資料1に示すように、事実に関わる新たな個別的知識及び技能を、既得の知識及び技能と関連付けながら、概念的・構造的な知識及び技能に高め、他の学習や生活の場面でも活用できる生きて働く知識及び技能とすることである。社会認識の段階で言えば、身近な社会的事象の事実を知る段階から、事象の一般的な傾向や事象間の因果関係などの様子や意味が分かる段階、そして、学んだことを活用して判断し、他の事象に転用できる法則性を有した段階へと高まることと言える。

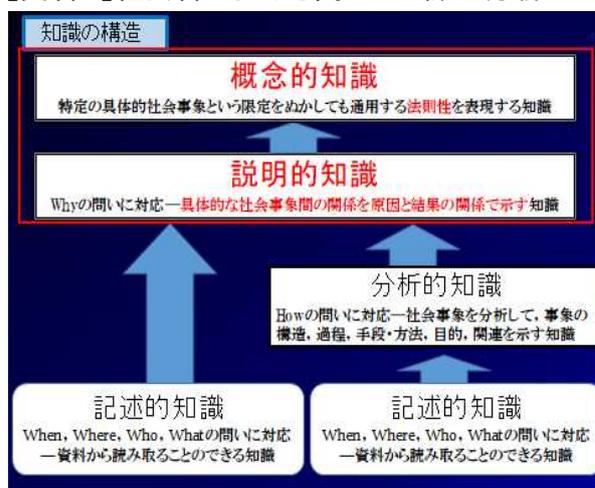
社会科授業で取り上げる「知識」には様々な段階のものがある。例えば、都道府県の名称や地図記号のような個別の「記述的・分析的知識」、社会的事象との関係を言い表した「説明的知識」、社会を見る目につながる「概念的知識」の三つに分類することができる。社会認識が深まった状態とは、児童生徒自身が探究を通して、「説明的知識」や「概念的知識」を習得した状態だと言える(資料2)。そのような知識を自ら獲得するために教師は、発揮される思考方法も考慮した上で、効果的な問いを設定したい。

【資料1】知識の理解の質の高まりのイメージ



総合教育センター指導資料社会 第132号より一部改作

【資料2】社会科における問いと知識の分析



「小学校社会科の授業設計」岩田一彦著

東京書籍出版 1991年pp. 33-45

2 知識を概念的に理解する手立ての工夫

(1) 都道府県の学習における具体例

小学校学習指導要領解説では、第4学年において、「47都道府県の名称と位置を理解すること」と示されている(資料3)。また、その際、都道府県の名称に用いる漢字については、国語科において第4学年までに指導することとなっており、全て漢字で書くことができるようになることを目指している。

児童の空間認識から考えると、実際に行ったこともない都道府県について、理解することが難しいと感じる児童も少なくない。また、ただ単に名称と位置を丸暗記させるだけでは、改訂の趣旨を踏まえた指導であるとは言えない。そこで、資料4のように、自分が住んでいる地域(鹿児島県)から学習を広げ、地域を少しずつ分けて、部分的に覚えることからスタートし、最後に日本全体が分かるようにする方法もある。また、資料5のように都道府県の特色や歴史などの知識と関連付けて考えさせることで都道府県について理解を深めることができる。さらに、他教科で学習する内容との関連でも教科横断的な指導を心掛けたい。例えば、国語科で学習する物語の作者の出身都道府県を取り上げることなども考えられる。指導方法としては、クイズ形式にしたり、都道府県の特色を表した写真を提示したりするのも有効である。他にも、パズルで形を覚えさせたり、歌や語呂合わせを活用したりするなどの方法も考えられる。これらの様な指導方法により、児童は、単に都道府県を丸暗記するだけでなく、その特色や位置について学習を深め、今後の学習や生活場面につなげていくことができると考えられる。

つまり、この学習では、社会的事象の特色を関連付けながら、概念的な理解を通して学習していくことが大切である。その際、教師は、児童が比較・整理・関連付けるなどの思考方法を発揮できる場を設定したい。

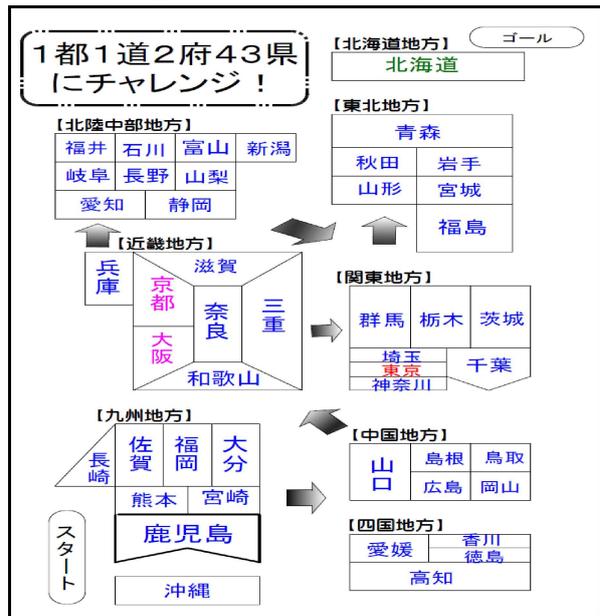
【資料3】学習指導要領解説第1章総説

第4学年においては、自分たちの県を中心とした地域を学習対象として取り上げ、次のような改善を行った。

- 主として「地理的環境と人々の生活」に区分される内容
 - ・ 都道府県の様子に関する内容については、「自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること」や「47都道府県の名称と位置を理解すること」を示した。

(下線は筆者)

【資料4】都道府県の位置を理解するワーク



【資料5】都道府県の特色等まとめワーク

出典：農林水産省統計(2017年)等をもとに筆者作成

No.	都道府県名	NHK for School(見るとニッコリ)	形や特徴	都道府県の特色や歴史など
1	北海道	酪農、牛乳などの生産	アイ	蝦夷地、雪祭りのウニ、かに
2	青森	森、海、ねぶた、りんご	カゴ	青森ソノル、豪雪地帯
3	岩手	宮沢賢治、わんこそば、南部鉄器	握り拳	中尊寺金色堂、りんご生産
4	宮城	伊達政宗、こけし、生タン	ムササビ	松島(日本三景)
5	秋田	かまくら、きりたんぽ、なまはげ	長づつ	秋田犬、秋田美人
6	山形	さくらんぼ、うづまき、ぶどう、花笠祭り	モアイ像	最上川、蔵王、将棋のコマ
7	福島	もも、野口英世、酒造りの職人	リス	白川-白川、白虎隊
8	茨城	偕楽園、筑波宇宙センター、メロン	大型犬	納豆、水戸黄門
9	栃木	いちご、日光東照宮(世界遺産)、餃子	イチゴ	宇都宮餃子、鬼怒川温泉
10	群馬	キャバツ、だるま、こんにやく	ツル	草津温泉、草刈製糸場
11	埼玉	川越市、秩父山地	いも	浦和レッズ、バグ、炊し
12	千葉	成田空港、醤油	漁船	東京マラソン、落花生
13	東京	首都、国会議事堂、江戸、東京タワー	グッピー	東京スカイツリー、黄門
14	神奈川	横浜、鎌倉、三浦半島	らくた	横浜中華街、江の島
15	徳島	すだち、うずしお、おはんろさん	馬の頭	阿波踊り、かすた橋
16	香川	瀬戸大橋、たぬ池、オリーブ	サイの親子	讃岐うどん
17	愛媛	タオル、道後温泉、タイの夏鹿	ライオン	みかん、ボンジョーズ
18	高知	坂本龍馬、土佐犬、かつお	はねた魚	よさこい祭り、促成栽培
19	福岡	辛子明太子、家具、扇台、山笠	クラゲ	博多どんたく
20	佐賀	吉野ヶ里遺跡、のり、干潟、ムツゴロフ	ピンキョ	有田焼、伊万里焼
21	長崎	カステラ、五島列島、出島、長崎くんち	四つがね	グラバー、臥石、稲佐山
22	熊本	熊本城、くまもん、阿蘇山、馬刺し	くまの親子	カルデラ、火の国
23	大分	温泉、かぼす、焼酎	しいたけ	高崎山、ヒタラギ
24	宮崎	野球キャンプ、マンゴ、神楽	犬の逆立ち	チキン南蛮、地鶏、青島
25	鹿児島	西郷さん、ロケット、さつまいも、黒豚	たかの顔	桜島、黒久島
26	沖縄	1600の島からなる、琉球王国(首里城)	ハリカ	サンゴ礁、もずく

(2) 単元の終末場面における具体例

授業や単元(小単元)の終末で学習したことをまとめる場面では、児童に学んだ知識の構造化や、中心概念に迫る知識の概念的な理解ができる手立てを講じたい。

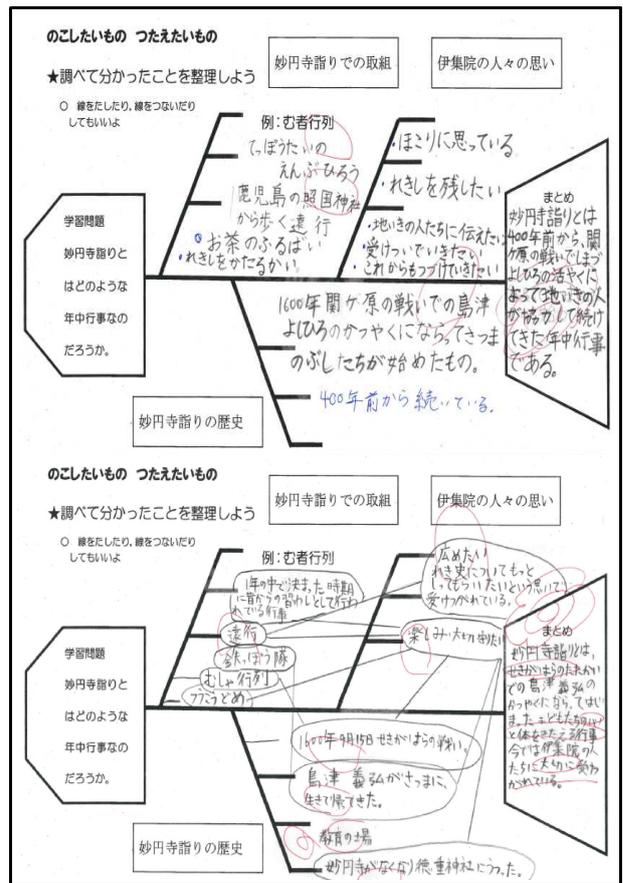
資料6は、令和2年度長期研修者である盛岡佑子教諭の第4学年「のこしたいもの つたえたいもの」の研究実践(単元の指導計画)である。小単元終末で、それまでの調査活動で調べて分かった社会的事象(妙円寺参りの歴史や取組、人々の思い等)を思考の構造化に有効な思考ツール(フィッシュボーン)を活用して児童による学びの構造図を作成する学習を行った。児童は、学習内容を振り返り、獲得した知識を整理し、比較・整理・関連付けを行い、それぞれの社会的事象の意味や因果関係を線で結んで考察し、これまで学習してきた内容の再構成を行った(資料7)。

【資料6】単元の指導計画

◎「思考力、判断力、表現力等」◎ 問題解決的な学習 ◎ 振り返り

階	主な学習活動	指導上の留意点
つ	1. 総合的な学習の時間に学習したことを思い出して問いを見つける。 どうしてここに建てたのかな、 なるために建てたのかな。	◎ 「社会的事象の見方・考え方」を働かせた問いを見付けさせるために、見学の前に見学の視点を確認する。
	2. お長屋について学習問題を作り、学習計画を立てる。 お長屋はお城だから、武士 垂水に住んでる人たちが多かったのかな。	◎ 学習問題を立てるために前時の問いを「いつ」「どこで」「だれが」「なんのために」の問いに分類させる。
	学習問題① お長屋とはどのような文化財なのだろうか。	◎ お長屋の由来を調べることとお長屋の歴史を理解させるためにお長屋についての年表や資料を提示する。
	3. お長屋について調べる。 垂水は、なんで日本遺産に選ばれたんだろう。 島津のお城は、どんな入だったんだろう。	◎ お長屋が今に至った経緯や城を築いた島津忠将について理解させるためにゲストティーチャーに積極的に関わらせる。
	4. お長屋についてゲストティーチャーに聞く。 島津忠将は、妙円寺参りを始めたお長屋のおじさんだ。 昔から今に受け継がれているものは歴史関係には他に何があるかな。	◎ インタビューを通して分かった事実と思ったことや考えたことの視点で振り返りをさせる。
調	5. 妙円寺参りについて学習問題を作り、学習計画を立てる。 妙円寺参りってどこでやるのかな、 妙円寺参りってどんなことするのかな。	◎ 県内の文化財や年中行事に考えを広げるために、妙円寺参りを取り上げる。
	学習問題② 妙円寺参りとはどのような年中行事なのだろうか。	◎ 疑問や予想から学習問題を立て、調べる方法の共通しをもたせるために妙円寺参りの写真を提示する。
	6. 妙円寺参りはどのように行われているか調べる。 いつから、だれがはじめたんだろう。 子供たちは何のためにたくさん参るんだろう。	◎ 妙円寺参りの取組の様子について迫るために、取組の様子の写真資料や新聞資料を基に協力関係について話し合わせる。
	7. 妙円寺参りの由来について調べる。 妙円寺はなくなったのに、今も残っているんだ。 どうしてそんなに長く残っているんだろう。	◎ 妙円寺参りの由来について理解させるために動画と写真を提示し、調べさせる。
	8. 妙円寺参りが今も残っている理由について調べる。 私たちへの思いも含まれているんだね。大切にしまえね。 町を盛り上げるためだけじゃないんだね。	◎ 行事を続けてきた人々の思いを理解させるために、妙円寺歴史年表と参加者のインタビュー動画を提示する。
まとめ	9. 妙円寺参りについて調べて分かったことをまとめる。 妙円寺参りは、島津忠将の戦いから歴史に生きてきてきたことを記憶して表しに調べる。 妙円寺参りに関する人々に大切に受け継がれている行事なんだ。	◎ 学習問題の答えを出すために前時まで調べたことをフィッシュボーン図を基にした図にまとめさせ、グループで話し合わせる。
	10. 地域に属する古いものを守り、受け継ぐために自分たちができることは何か考えるために、なりきり手紙に表現する。 地域の行事に参加してみたかったな。 知らない人に教えて、どんどん伝えていくといいと思う。	◎ 自分たちに出来ることに気付くために、島津のお城様になったつもりになりきり手紙を書かせる。

【資料7】思考ツールによる整理(フィッシュボーン)



単元終末において、これまで学習した社会的事象を振り返る際に、このフィッシュボーンは、児童にとって非常に活用しやすく、それぞれの事象を比較・整理・関連付けを行うことができた。また、学習問題に対する自分なりのまとめを自分の言葉で行うこともできた。妙円寺参りで毎年行われる遠行等の取組の由来や目的を、歴史的事象から考察し、それらを今でも大切に継承している地域住民の願いまでつないでまとめることができた。

このように、単元終末のまとめる学習では、児童が獲得した社会的事象(知識)を再構成し、自分の力で学習問題に対するまとめを考えることが大切である。また、そのことにより、児童は、知識の概念的な理解を深め、社会のつながりが分かる楽しさを味わうことができる。さらに、児童は、問題解決に対する達成感や新たな問いを見いだすこともできる。

(3) 授業の終末場面における具体例

授業終末の振り返りの場面では、以下のことを目的に自分の学びを振り返らせていきたい。

- ① 「学びに向かう力」を涵養するため
- ② 「深い学び」の実現のため
- ③ 内容知や方法知の習得のため
- ④ 学習したことの再構築を図るため
- ⑤ 学習への成就感や達成感を育むため

振り返りでは、何を振り返ることが大切か。先に述べた目的を基に考えると、以下の視点(内容)が考えられる。

- ①「位置付け」の視点(自分自身の変容)
(例)今までの自分と比べて、学習に取り組む姿勢はどうだったか。
- ②「関連付け」の視点(多様な考え方)
(例)自分の考えと比べて友達の考えはどうだったか。
- ③「意味付け」の視点(学びの意味)
(例)本時の自分の学習は、自分にとってどのような意味があったか。
- ④「価値付け」の視点(学びの価値)
(例)学習した内容が理解できたか。
自分なりの成長があったか。
- ⑤「方向付け」の視点(学びの連続性)
(例)これからの学習に向けた目標や課題はあったか。

毎時間終末に振り返りの時間を設定するのは困難であり、あまり現実的とは言えない。そこで、単元指導計画において適切に位置付けることで計画的に取り組みたい。

【資料8】児童の振り返りワークシート

日付	めあてに対して分かったことを自分の言葉でまとめてみよう。	めあてに対して自分が思ったことや考えたことをまとめてみよう。
11/2 (木)	学習問題にえて、わかるくめる、つなぐがよくて、1人調べ、グループ調べがよくて、つなぐがよくて。	遠行で広めたり、おもしろいことして、つなぐがよくて、うんて受けかかっていると思いかつ強くなったかと思いました。
11/2 (木)	10時間勉強して、分かったのは、お長屋をのちと馬のたけなくおこして思いました。	おもしろいこと思いました。また、おもしろいこと思いました。

資料8は、先に述べた第4学年の授業後のワークシートである。左側の枠に、本時の授

業で分かったことを自分の言葉で記入し、右側の枠には、本時の学習で自分の思いや考えを自由に記載している。この児童は、本時で、「分ける・比べる・つなぐ」など様々な思考方法を駆使して問題解決に取り組んだことが分かる。また、歴史的な事象から、歴史学習への興味・関心を高め、地域住民の思いや願いに気づき、本時のねらいとする概念的知識まで高めた姿が分かる。調査活動後に、まとめて学習を終るだけでは、十分な理解まで深まらず、表面的な理解になりがちである。しかし、振り返りの場を設け、自分の学びをじっくりと振り返り、再考することで、内容知の習得(理解)を深めたり、自分の方法知(学び方)のよさに自信をもったりすることができる。

4 終わりに

これまで、社会科における知識の概念的な理解について述べてきたが、児童生徒がこのような学習を展開していくためには、教師の意図的・計画的な授業デザインと児童生徒の学習意欲が最も大切である。その積み重ねが、児童の社会科学習における「学びに向かう力」の涵養にもつながっていくと考える。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説社会科編』平成30年
- 【動画】見えるぞ!ニッポン NHK for School
- 鹿児島県総合教育センター指導資料社会第132号)平成31年4月
- 澤井陽介『見方・考え方「社会編」』平成29年東洋館出版
- 北俊夫『社会科学力を作る「知識の構造図」と教科書』明治図書出版平成23年7月
- 盛岡佑子 令和2年度県総合教育センター長期研修報告書『問題解決的な学習における「思考力、判断力、表現力等」を育む社会科学習指導の在り方』令和3年3月

(教科教育研修課 才川文秋)